

# 輸入された スエーデン・ランドレース

最近の食生活の変化、特に畜産物の消費の漸増は目をみはるものがある。これを豚肉の上でみてもその消費はようやく世界各国なみに、従来のラード・タイプからベーコン・タイプへと需要が変化しつつあり、我国で現在飼育されている中ヨークシャー種、バークシャー種のような軽量なラード・タイプの豚は欧米では20~30年前に姿を消し初めたいわゆる古い品種であり、日本でも当然世界の市場や国内の需要から見てこれらの品種とは変わったベーコン・タイプ)加工型、赤肉豚)のものを繁殖する時期ではないかと考えられる。このときにあたり岡山県にスエーデンからベーコン・タイプのランドレースが輸入されたことは時勢にそくした事と思われるが、今後の指導についてはなお一考を要する点がある。

## 1、ランドレース豚とは

Landrace とは土産種という意味の呼び名で、北欧スカンジナビアン諸国の土産種の豚をさすが、なかでもデンマークのランドレースが優れており世界的に有名である。現在デンマーク政府は生体の輸出を禁止しているので我国への輸入は英国、スエーデン等より主になされている。

### (1) ランドレース種豚の各国における位置

現在は世界的に最もひろまっている豚はランドレースであり、検定結果も脂肪が少なく加工用としても生肉用としても有利で、経済的に他の品種豚よりも優れていると云われている。

各国における全飼育頭数に対するランドレース豚

の飼養割合は下記のとおりである。

英国…40% (第2位) スエーデン…80%、デンマーク…95%、ドイツ…84%、

### (2) 体 型

若雌豚は洋梨型 (ナスビ型) 雄豚はソーセージ型を呈し、白色で、ベーコン・ポーク用いずれにもすぐれ胴伸びが素晴らしく良く、均整がとれており、耳は顔面に垂れ、肩は軽くて良く繋り、尻は丸味を持ち広大で飛節に至るまで深く充実している、皮ふはきめ細かく白色肢蹄はしっかり直立している。

### (3) ランドレースと中ヨークシャーとの比較

種 類 別 区 分	ラ ン ド レ ー ス	中 ヨ ー ク シ ャ ー	備 考
平均産仔頭数	11.7	10.0	
生時平均体重 (Kg)	1.3~1.5	1.1~1.3	
成豚体重 (Kg)	240~330	200~250	
飼料効率	3.05	4.4~5.8	
枝肉歩留 (%)	68.3	63.2	
背脂肪の厚さ (Cm)	3.01	3.9~5	
1日平均増体量 (gr)	690~705	400~450	
90Kgになるまでの日数	170~180	210日以上	

### (4) ランドレースの特長及び問題点

#### (4) ラ ン ド レ ー ス の 特 長 及 び 問 題 点

特 長	問 題 点
1. 発育が早い。 2. 飼料効率が低い。 3. 肉質が優れている (脂肪の身体分布が平均化されている) 4. 産仔率が平均しており、哺乳が上手である。 5. 他品種との交配に高い改良性を示す。 6. 耐病性に富んでいる。	1. 皮ふがやや弱く、あつさに弱い傾向がある。 2. 分娩時の胎仔大きくやや難産の傾向がみられるのであまり早く繁殖に供用しないこと。 3. 輸入豚は日本脳炎に対する注意が必要である。 4. 豚房はやや広く要し繁殖豚で1頭につき3坪雄の間仕切の高さは110Cm以上が望ましい。

岡山畜産便り 1962.02

2、日本に輸入されているランドレース豚

昭和34年2月アメリカンランドレース雄3頭、雌15頭が山梨県立住吉種畜場に寄贈輸入されてから、昭和36年に至り欧州からのランドレース豚の輸入が急激に増加したが主な輸入先国のランドレースの大半は下記のとおりである。

(1) スウェーデンランドレース (Suedish Landrace)

昭和36年5月株式会社會田牧場(埼玉県の日高牧場)を初め鹿児島県、千葉県等に輸入されたもので、このたび本県に輸入されたのもこれである。

スウェーデンでは自国の土産種にデンマーク・ランドレース (Danish Landrace) の血液を導入し改良した豚で同国での産仔検定及び能力検定成績から平均値を見ると次のとおりである。

分娩仔数	3週令仔数	3週令仔数の生体重	屠殺適令期	1日増重	屠体歩留	背脂肪の厚さ(中央部)	増体重1kg当りに要した飼料単位
11.6	9.4	55.5kg	生後171日	691gr	73.1%	22.8cm	3.08

(2) 英国ランドレース (British Landrace)

昭和36年6月株式会社埼玉種畜牧場に輸入されあつつあるもので英国では1949年スウェーデンから初めて輸入し、その後自国内で増殖改良を行ない、1953年に英国ランドレースの名のもとに登録が開始され現在にいたっている。この品種の英国における能力成績は次のとおりである。

(3) アメリカン・ランドレース (American Landrace)

昭和34年2月山梨県に寄贈され県立住吉種畜場で飼育されているもので、アメリカでは1934年デーニッシュランドレース32頭を輸入しこの豚の子孫に改良を加えていった(ポーランド チャイナ種、大ヨークシャー種が混血) この品種の山梨県種畜場に於ける成績を見ると下記のとおりである。

3、岡山県に輸入されたランドレース豚

岡山県には Suedish Landrace 30頭(雄5頭、雌25頭)が輸入されたその第一陣の5頭(雌4頭、雄

1頭)は空路 Stockholm より9月30日羽田に到着し所定の検疫を横浜で終了し、10月19日酪農試験場に到着した、のこり25頭は10月28日海路神戸に到着し内10頭は酪農試験場試15頭は和牛試験場へ入場するのであるが当分はそのままそれぞれの試験場で飼育される事になる。

(1) 飼養管理

当分の間は日本配合飼料株式会社のランドレース種豚育成用飼料を給与する事となっているが将来は自給飼料の利用その他県下で安く入手出来る飼料の利用を考えねばならないと思う。

次にスウェーデンに於ける農豚用配合飼料の一例を示し参考に供する。

(2) 肉質

脂肪が少なく背脂の厚さ(中央)平均2.93cmでベーコン用としても生肉用としても優れた赤肉生産豚で世界の市場の要求に即応した肉質であり将来日本に於いても多数増殖される豚であろうと思う。

(3) 利用の方向(雑種の利用)

ランドレースの純すい繁殖による種豚の確歩は当面の問題として重要ではあるが、現在の中ヨークシャー種の雌にランドレース種の雄を交配して中ヨークシャー種とは変わった肉質の豚(将来需要がますますと思われる加工型、赤肉豚)を作り出し、現在日本に飼育されている豚の肉豚としての価値の向上に役

分娩仔数	8週令仔数	生時体重	3週令体重	8週令体重
9.9	8.1	1.3~1.5	5.85	17.05
90kgに達するまでの日令	屠体歩留	生体に対する飼料要求率	1日増体量	
165~189	73.7~74.2	3.16~3.45	680gr	

産仔数(初産)		生時体重
8.21頭		1,490kg
10日	60日	176日(發育良いもの)
3,670kg	17,750kg	96.0kg

岡山畜産便り 1962.02

立たせる事が急務では無いかと思  
われるがこれを実現するためには  
なお種々の試験調査が重ねられね  
ばならないであろう。

32	28	33	34	36	番号
幸美	藤栄	高城	大原	大松	名号
20	24	24	27	35	月令
				カ月	
勝田	苦田	久米	井原	英田	産地
英田	苦田	久米	井原	英田	所有者
美作	鏡野	柵原	神代	英田	
中村	藤田	石戸	原田	長尾	
泰一	栄啓	資資	大郎	三郎	

飼料(原料)名	配合割合 %	備考(保証成分・給与量等)
穀類(通常大麦60%, 燕麥40%)	70.0	(1) 体重 40Kg~70Kgに給与するもので 1頭1日当り 40Kg.....1.7Kg 50Kg.....2.1Kg 60Kg.....2.3Kg 70Kg.....2.5Kg
小麦麩(85%以上)ライ麦麩	17.8	
大豆粉	1.6	
ルーサンミール(人工乾燥, 一級品)	2.8	
魚粉(粗蛋白62~68%)	3.2	
肉粉(粗蛋白52~58%)	1.6	
石灰石粉	1.0	(2) 保証成分 粗蛋白質 14%以上 可消化純蛋白 11.5%以上 粗セロイ 7.0%以下
食塩(ヨード化)	0.18	
鉄, 銅, マンガン, 亜鉛(硫酸塩)	0.12	
飼料酵母	0.6	
ラクトーズ蛋白(D.T.P 18%以上)	0.4	
ビタミンE	0.5	
肝油	0.2	

次に山梨県種畜場に於けるヨークシャー種とアメリカンランドレース種と中ヨークシャー種の1代雑種との成績を1部紹介して参考とする。

調査隊	生時 体重	10日 目体 重	60日 目体 重	90Kgに 到達する までの 日数	平均 増 量	1Kg増 体に 要した 飼料	と体 歩留	と体 巾	ロース			背脂肪
									長	巾	周長	
1代雑種雌	1,690	4,650	21,300	183	559	—	—	—	—	—	—	—
〃 去勢	1,050	3,500	16,800	204	508	3,036	68.5	34.0	5.5	4.3	17.5	2.15
〃 去勢	1,000	3,460	17,200	200	520	3,016	71.2	34.0	5.8	5.0	18.2	2.15
ヨークシャー 雌雄平均	1,150	3,500	13,800	189~216	491~622	3,340~3,860	69.1	31.9	4.7	2.7	15.5	1.3~2.6

以上種々の冊子及び見学見聞した事を参考に私の所感を加えてランドレースについて述べたが最初に書いたとおり今後の試験調査及び指導面に多くの問題があると云うことをのべて筆を置く。

(岡路試 R・M)

枝肉共進会大阪市で開催

粒ぞろいの去勢牛 36 頭出品

第3回岡山県枝肉共進会は1月29日、30日の両日、岡山県総合畜産主催で大阪市の大阪食肉卸売市場で県下4市・10郡から選抜の去勢肥育牛36頭が参加して開かれた。そして審査顧問の農林省中国農試畜産部の土屋技官・審査員の林県和牛試験場長らが審査を行ないつぎのように入賞が決まった。

なお第2日には褒賞授与式の後、同市場内セリ場で荷受機関によって出品枝肉のセリ売りが行なわれた。

最優秀賞  
優秀賞

藤田号(4才)岡山市湯迫藤田昇ほか14頭

審査報告(抜すい)

総体的に見て昨年より一層よく揃っている。これは去勢牛の肥育が一般に充実してきたことの証左で結構なことである。従来散見されたような「刺し」の全く認められないもの、脂肪の色が甚だしく黄色なものなど目につくものが1頭も見られなくなって、全体が粒揃いとなったしかし反面枝肉共進会として

はもっと優秀なものがあってほしいと思われた。今後の研究課題として目される点について言及して見ると、肉の色、脂肪の色など大体よかったようであるが全般に肥育程度が不満足のように、肉付脂肪の附着状態等もう一息と思われるものが多く見られた。またと体としての釣合いが垢軀の充実が足りないように見られた。しかし今後改良上の重点目されている腿の形状は、だんだん改善されたあとがうかがえるように認めた。全体に肥育度が不足気味のためか枝肉重量が260kgを下廻るものがあったことは残念であった。

出品は産地、月令等がはっきり識別できるものに限定することが望ましい、この点今回の出品も判然としないものが多いが、去勢牛の肥育ができるだけ若令化の傾向にあるとき経済的な肥育を推進するためこの点を強調した。

出品内訳

岡山5、児島郡2、邑久7、赤磐1、倉敷1、浅口1、小田1、笠岡1、吉備7、苦田1、勝田4、久米1、井原2、英田2、